

カーネーションの計画的生産に関する研究

1 営利品種の生産力について

佐藤義機

この研究はカーネーションの計画的生産をおこなうための基礎資料を得るために計画した。そこでこの実験では香川県内で栽培されている30品種について切花特性を調査した。

各品種は1973年7月12日に砂上げ定植し、8月1日に地際から第5節を残して一斉にピンチした。そしてピンチ後40日目に各品種の分枝を3本に整理した。実験は1974年の5月31日までおこなった。

その結果、つぎのことが明らかになった。

1. 1株当りの切花本数はピンク・ミスト、イエロー・スマイリング、粧、オレンジ・ビューティ、コーラル、ドンシェラおよびアーサー・シム品種ではいずれも9本以上であった。逆に粧枝変り、ユーコン#1、ダーク・レナ、スカニヤ3Cおよびピンク・アイスは、切花数が少なく7本以下であった。
2. 各品種の到花日数と切花長との関係を見ると、大分2号、イエロー・スマイリング、ブルー・シドニー、粧、久留米ピーターおよびコーラルのように早く開花するグループは切花長が短かく、逆にアラスカ・ホワイト、フラミンゴ、ドンシェラ、イエロー・ダスティおよびレッド・ダイヤモンドのように遅く開花するグループは切花長が長くなる傾向を示した。
3. 分枝位置を上部より1,2,3番枝とし、分枝位置と開花の早さの関係をみると、第1次分枝では1番枝が早く開花する割合がもっとも多く、ついで2番枝、3番枝の順となった。この傾向は第2次分枝についても同じようにみられた。この結果上部分枝ほど開花は早くなるということが明確となった。
4. 第1次および第2次分枝の開花の早遅と第2次分枝の切花数の多少で各品種を分類すると、つぎのようであった。
 - A₁)第1次および第2次分枝の開花が早く、第2次分枝の切花数が多い品種はイエロー・スマイリング、アーサー・シム、コーラル、粧。
 - A₂)同じように開花は早い、第2次分枝の切花数が少ない品種は大分2号、リンダ、オハイオ・ホワイト、ペルシャン・ピンクなど。
 - D₁)逆に、第1次および第2次分枝の開花は遅いが、第2次分枝の切花数が多い品種はフラミンゴ、ドンシェラ、ピンク・ミストなど。
 - D₂)同じように開花が遅く、第2次分枝の切花数が少ない品種はスカニヤ3C、ダーク・レナ、ユーコン#1、レナなど。さらに前述したグループの中間的位置になる品種はオレンジ・ビューティ、オハイオ・ライト・ピンク、ショッキングシムおよび粧枝変りであった。